

浅草寺病院だより

2022 年
【新年号】

2022 年 1 月 12 日発行
社会福祉法人浅草寺病院
東京都台東区浅草 2-30-17
☎ 03-3841-3330

理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



新年のご挨拶

病院長 黒田 忠英

あけましておめでとうございます。

2022 年の新しい年を迎え、皆様の健康と平穏な日々が早く戻りますように祈念いたしております。この年末年始もさることながら 2020 年から始まった新型コロナウイルス感染症によって、我々の日常生活は一変してしまいました。この年末年始も気が抜けない日々が続き、年始からは感染者数の増加が目立ってきております。日常生活においてはマスク、手指衛生、うがいといった with コロナが定着し、非常に厳しい第 5 波となったデルタ株による感染拡大の中で、日本は手探り状態でオリンピック、パラリンピックを無事やり遂げることができました。その他にも、ソーシャルディスタンス、リモートワーク、三密回避など様々な言葉が新しい日常として定着しました。しかし、新型コロナウイルスの生態も未だ十分解明されておらず、いずれ来る第 6 波に備え、医療体制も整えながら日常生活においても感染防御策を励行することによって、自分たちの身を自分たちで守る日々が続いていきます。人々は生活から仕事、そして医療においても新しい日常へと変化してきているのではないかと思います。

医療現場における変化は、新型コロナウイルス感染症の入院ベッドの確保問題などによる医療の逼迫のみではなく、通常の外来診療においても今までの日常とは変わってきています。新型コロナウイルス感染症を恐れることにより病院への受診控えが起こっており、高血圧、糖尿病など生活習慣病を持った患者も、内服治療を自己中断するなど、多くの患者が未だに病院、医療機関を避け、治療を継続できていないのではないかと思います。その他にも、日頃から行われていたがん検診を含めた各種健康診断の受診者も減少してきています。2020 年は前年に比べがんの発見者数が約 6 万人減少しているとのデータもあり、特に症状の出現しにくい早期のがん患者の発見率が減少しているようであります。当然コロナ禍であっても、がんの発症が減少するわけでは決してありません。検診などが受診控えとなっていることによって、がんの早期発見ができていないのではないかと思います。日本国内で毎年新たにがんと診断される人は約 100 万人おり、がん患者のうち 5 人に 1 人が、がん検診や健康診断で発見されているというデータもあります。がん検診や一般の健康診断、人間ドックなどをしっかり受けることによって、様々な疾患を早期に発見していくことが可能になると考えられます。是非、感染対策はしっかり行った上で、一般の定期通院、がん検診や一般健康診断、人間ドックなどしっかり受診するようにしてください。

2022 年の干支は壬寅(みずのえ・とら)で、「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるということを意味しているようです。まさに今現在も続いているコロナ禍という非常に厳しい冬の時代が終わり、早く暖かい春の時代を迎えられることを願っています。本年もどうぞよろしくお願いたします。

そけいヘルニアとは、一般の方には「脱腸」と呼ばれている病気で、お腹の中の腹膜や腸の一部が、そけい部の筋膜の間から皮膚の下に出てくる病気です。そけい部とは足の付け根の部分で、ヘルニアとは体の組織が正しい位置から脱出した状態をいいます。

患者さんの約9割が男性で、50歳以上の方が特に多いといわれています。男性にはそけい管と呼ばれる本来内臓である精巣を胎児期に体外に出すために使われる通路があり、加齢などによって筋膜が弱るとそけい管が開きやすくなり、腸が入り込むことで起こります。

太腿の血管や神経の脇から腸が飛び出す大腿ヘルニアも、そけいヘルニアの一種です。大腿ヘルニアは女性に多く、特に加齢や出産などで筋肉や筋膜が緩み、重たい物を持つなど腹圧がかかるような状態が続いたときに起こりやすいとされます。

症状としては次のものがあります。1)立ち上がった時やお腹に力を入れた時に下腹部や足の付け根にしこりやこぶなどの腫れがある。2)上から見下ろして足の付け根あたりに左右のふくらみの違いがある。3)しこりは手で押し込んだり、仰向けになると引っ込むことがある。4)足の付け根から陰囊まで腫れている。

そけいヘルニアは自然に治ることはなく、手術以外に治す方法はありません。良性の病気ですが、放置すると嵌頓(かんとん)といって脱出した腸などの臓器が戻らなくなり、臓器の血流障害から壊死してしまうため緊急手術が必要になります。そのためそけいヘルニアと診断された場合は、手術治療をお勧めします。

そけいヘルニアでお悩みの方やご自身の症状がそけいヘルニアかなと思われた方は、是非一度当科までご相談ください。



レスパイト入院のご案内

医療福祉相談・連携室

浅草寺病院では、在宅で介護されているご家族が疲れを感じた時や、病気・冠婚葬祭などで一時的に在宅介護が困難になる場合に、短期入院のお受け入れをしています。

対象の方

- ・急性期治療を必要とせず、症状が安定している方
- ・胃瘻、在宅酸素、中心静脈栄養、褥瘡など、医療的処置が必要な方もご利用可能です。

ご利用条件

- ・1回の入院期間は、原則14日以内です。
- ・在宅へ退院される方がご利用いただけます。
- ・入院の際は普段服用されているお薬をご持参いただきます。

その他ご不明な点がありましたらお気軽にお問い合わせください。

医療福祉相談・連携室 TEL 03-3841-3353(直通)

